

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1090300052
法人名	NPO法人 大門
事業所名	グループホーム いずみ
所在地	群馬県桐生市菱町 3-1996-1 (電話) 0277-32-3370

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 20年 4月 30日

【情報提供票より】(20年 4月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 2月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤専任 5人 常勤兼務 1人 非常勤 3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,200円	その他の経費(月額)	日用品・光熱水費725円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.7歳	最低 67.4歳	最高 91歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桐生厚生総合病院・東邦病院・林内科医院・じゅん歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの要とも言える理念について職員が理想とする姿や思い等、話し合いの中から職員全員で作らば「その人らしく、自信をもって暮らす…」等々を掲げ、理念を念頭に具体的な関わりや行動等、日常的に実践されている。利用者の生活歴や経験を活かし、季節の行事(雛祭り・節分・餅つき)等、その時期に準じて行事の由来等利用者から確認し、伝統的な事柄を協同で楽しめるような取り組みが自然な形で行われている。個別の買い物やドライブ等で日常的な外出支援により、生活のメリハリを考慮し、楽しみごとや気晴らしへの支援が実践されている。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	今回は初回調査のため、改善状況項目等については無し。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	評価の意義を理解しており、自己評価については、職員に評価票を配布・記入し、ミーティング時に確認を行い、まとめたものが管理者により記載された。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	委員の仕事上等の都合により出席者が少なく、作年の11月に1回開催したのみである。今後は、参加方法等についても工夫し、定期的に開催していく方向で検討して行きたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族の面会時に日常の様子を伝えると共に意見・要望等を聞く機会とし、出された意見等はミーティング時に話し合い運営に反映させている。又、苦情受付担当者が明記されており、玄関ホール内に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	隣組(自治会)に加入しており、回覧板や組合の活動(新年会・お祭り)等参加している。又、地域の幼稚園のお遊戯会、小学校4年生の職場体験等を通して、地域住民との交流が日常的に図られている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で当たり前の暮らしや生活の継続を支える体制づくりとして「家族・地域と今までのつながりある生活・・・」等々全職員の意見を取り入れホーム独自の理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で作りあげた理念の実践に向け、毎朝の申し送りや1回/月開催のミーティング時に確認をしている。又、日常的に話し合いながらケアの場面で実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組(自治会)に加入しており、回覧板や組合の活動(新年会・お祭り)等に参加している。又、地域の幼稚園のお遊戯会、小学校4年生の職場体験等を通して、地域住民との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を各職員に配布し項目毎に記入を行い、ミーティング時に確認し、まとめたものを管理者が記載した。評価の意義を理解しており、外部評価の結果については、家族や職員に公開し、改善事項等への取り組みを行っていく。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は委員の仕事上等の都合により出席者が少なく、昨年の11月に1回開催したのみではあるが、今後は工夫し定期的に開催して行く方向での取り組みを検討して行く。	○	運営推進会議の委員から出された意見・助言等、第三者的な視点からサービスの質の向上に活かして行く為にも、ホームの取り組み状況の報告等を含め、委員が全員出席でなくとも会議開催の機会を設定することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議の開催時に相談するが、それ以外では交流の機会がないため、今後は連携を図りサービスの向上に努めていきたい。	○	地域密着型サービスとしての観点から、市町村との交流等を通じてサービスの質の向上に繋げることが求められているため、会議以外でも日常的に市担当者と連携が図れるような取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が頻回にあり、面会時に日常の様子等を伝え、身体状況等については、随時電話にて連絡を行っている。又、1回／半年、ホーム便りを発行しており、行事の内容や写真等掲載し全家族へ送付している。写真掲載については家族等の了解が得られている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見・要望等を聞く機会とし、出された意見等はミーティング時に話し合い運営に反映させている。又、苦情受付担当者が明記されており玄関ホールに掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等を防ぐ工夫として、福利厚生(食事会の設営等)や職場環境の改善(休憩場所の確保等)に取り組んでいる。開所以来、現在まで職員の異動等は無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域密着型サービス連絡協議会主催や各種研修会等に順番で参加している。又、職員に看護師がおり、食中毒や感染症等についての勉強会を状況に応じて実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、ブロック別の交流研修(レベルアップ研修)及び職員の交換研修等に参加し、情報交換を行いサービスの質の向上等への取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望や相談時には、本人と家族が見学し雰囲気体験して頂いたり、職員が自宅や病院へ訪問する等、納得した上での利用となるように心掛けている。再度見学に訪れ利用者と一緒にお茶を飲んだりする人もいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の生活歴を大切に、得意な事を生活の中に取り入れる事により、職員の知らない言葉・出来事・方法等様々な発見があり、洗濯物の干し方・季節の行事等、学ぶ事が多く、日常的に支え合いの関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自のアセスメント表を活用し、日々の関わりの中から言葉・表情等により本人の希望や意向の把握を行っている。又、意思疎通の困難な人には、家族や関係者等から情報を得て支援できるよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各自の記録書(モニタリング記録)に基づき、本人・家族等の意向確認を行い、申し送りやミーティング等で話し合いの上、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のモニタリング(記録書)の確認を行い、全職員・ケアマネジャー等で定期的(3ヵ月毎)に介護計画の見直しをしている。又、状況の変化等については、その都度職員間で話し合い、現状に即した随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	継続的なかかりつけ医への通院は原則家族に依頼しているが、都合等に応じて職員による通院支援が行われている。又、買い物(パン屋・100円ショップ)等、個別の希望に応じた柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力医療機関についての説明を行い、同意を得て6名の変更があり、かかりつけ医による1回/2週の往診支援が行なわれている。又、従来のかかりつけ医に受診の際は、看護記録(サマリー)で様子を伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のあり方についての指針が文章化されており、入所時に希望確認を行っている。今後は、それぞれの利用者に合わせ、随時家族・かかりつけ医等と相談を行い対応していく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを損なわないような対応や尊厳を持った言葉づかい等に配慮した支援を行っている。又、利用者等の個人情報の保護については、個人情報取り扱い指針が定められており、職員採用時には誓約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れ(日課)はあるが、各自のその日の体調や気持ち等を尊重し、自由に編み物をしたり食事の摂取時間等、可能な限り個別のペースを保ちながら過ごせるような働きかけに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り・下膳・食器洗い等、一連の動作を共同で実施している。又、利用者の好物を聞いてメニューに取り入れる等、食事時には職員が同席し会話を楽しみながらの支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日入浴が可能な体制ではあるが、希望やタイミングに合わせた個別浴により、平均3回/週の入浴となっている。午後から夕方の好きな時間帯で入浴を行い、拒否者には声掛けの工夫をする等、無理なく入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の生活歴等を把握し、園芸・掃除・洗濯物たたみ等、仕事や役割として日常的に継続できるよう支援している。又、居室で1対1での談話をしたり、買い物・散歩に出かける等、楽しみごとが見出せるように心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望及び日常の会話の中から想定される行きたい場所・見たい所等、散歩やドライブを兼ねて出かけている。又、季節の花見(藤・花水木等)や近隣の公園での行事見学等、外出支援が行われ日常的に気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム目前が県道であり交通量が多く、見通しが悪いため安全策として玄関は日常的に施錠している。家族等には、状況を説明し同意を得ている。	○	利用者や家族等の心理的な弊害等に配慮し、アセスメントによる個別の行動パターン等の把握を行い、リスク管理を考慮の上、施錠しなくても済むような工夫への取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回/年消防署の協力を得て、実践的な消火訓練や避難方法の確認を行っている。又、地域の人(10名)等に声をかけており協力体制が図れている。今後は地震や水害時等含め2回/年の訓練を実施して行く。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者を利用しており、業者の栄養士と話し合いのうえ献立を作成し、野菜を追加したり麺類やパンに変更、行事食を取り入れる等、食事内容を工夫している。個別の食事摂取量の確認は行っているが水分については行われていない。	○	季節に応じた行事食を多く取り入れる等、食事内容への配慮はなされているが、総合的な栄養バランス等の観点から、食事摂取量と同様に水分摂取量についても一日を通してチェック(記録)を行い、個別の健康管理等に繋げる事を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花の鉢植えがあり、ホール内には季節感のある作品や装飾品等が掲示されている。又、畳部屋・ソファ等自由な居場所が確保されており、採光や室温も適度で居心地よく過ごせるような取り組みがなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、使い慣れた馴染みの物を持って来て頂くよう働きかけている。各居室には、箆笥・机・写真等が持ち込まれており(自分の部屋と思える様・・・)安心して過ごせるような配慮がなされていた。		